

月報 シオン山

2024年6月2日発行 (No405)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」

ヨハネによる福音書20章21節

永遠の命

下川礼子

昨年の夏、産後の娘と赤ん坊の世話で暑い毎日を奮闘していた時のことです。姪からの電話で、七歳違いの姉が余命半年の診断を受けたことを知らされました。新生児から浴びるまぶしい生の息吹とは、最も対極をなす死のイメージ。孫誕生の喜びの中にある私には、しばらく伏せておくようにとの姉の心遣いがあったことも聞かされました。生を受けたものすべてにとって死は宿命であり、誰にでも訪れます。

それだけに人類の不老不死への夢と挑戦は大きいものがありますが、どんなに科学が発達しても、誰一人死から逃れることは絶対に不可能なことでしょう。当然頭ではわかっている、現実に自らの死を具体的に宣告された姉の気持ちを思うとその思いは測り知れなく、しばらくの間は大きな動揺を抑えきれませんでした。改めて死を身近に感じ、いろいろなことを考えさせられました。

私たちクリスチャンは、「永遠の命」を与えられています。「永遠」と「命」。それぞれの意味は難しくないのに、「永遠の命」とくっつくと途端に意味深長な言葉になります。聖書には次のように記されています。

「主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」 —創世記 2 章 7 節—

このように人間は神の息がかかった存在であったのに、神さまから離れて勝手気ままに罪の中に生きるようになってしまいました。そこで神さまは御子イエス・キリストをこの世に送り、十字架の死と復活によって赦しと新しい命を約束してくださいました。そのイエス様を知る時に、私たちは永遠の存在である神さまからの命の息を得て新しく生き直すものとなります。

「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」

—ヨハネによる福音書 17 章 3 節—

神さまを中心においた生活の中で、私たちの内に神さまの霊がいつも働いておられることが、永遠の命を与えられているということだと思えます。

お医者様の診断を上回る日々を頑張っていた姉ですが、先月半ばに召されました。幼い時から西南女学院の環境の中で育ち、中学高校短大の卒業後は、富野教会みくに幼稚園に勤めておりました。結婚後移り住んだ近隣の長住教会で奏楽奉仕をさせていただいたこともあったようです。パプテスマを受けてはいなかったのですが、病室ではっきりと自身の信仰を語ってくれ一緒にお祈りもいたしました。神さまにすべてを委ねた安らかな日々でした。祈り会や皆様のお祈りにいつも支えていただきましたことを大変感謝しております。

永遠の命につながる希望と喜びの信仰生活を、シオン山教会でずっと皆様とともに歩んでいきたいと心より願っております。